



言語聴覚士について教えてください。

言語聴覚士 (Speech Therapist : ST) とは？

言語聴覚士は、「ことば」「きこえ」「飲み込み」に問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるように支援する専門職です。国家資格を持ち、小児から高齢者まで幅広い世代の生活を支えています。

言語聴覚士の仕事内容

言語聴覚士の仕事は多岐にわたります。

まず「ことばのリハビリ」です。脳梗塞や脳出血などを発症すると、言葉の出にくさや話の内容が理解しにくくなる失語症、発音が不明瞭になる構音障害、記憶や集中力が低下するなどの高次脳機能障害がみられることがあります。また、小児ではことばの発達

の遅れなどがあります。言語聴覚士はそういった方に対して検査や訓練を通して、ご家族や地域の方と上手くコミュニケーションがとれるようにお手伝いします。

次に「声のリハビリ」です。声帯の手術後や病気の影響で声が出にくくなった方に対して、呼吸や発声方法を練習し、無理なく声を使えるよう支援します。

また、「きこえのサポート」も大切な仕事です。加齢や病気で難聴の方に、補聴器の活用や聞き取りやすい環境の工夫を一緒に考えます。会話がしやすくなることで、人とのつながりを守り、認知症予防にもつながると言われています。最後に、「飲み込み（嚥下）のリハビリ」です。脳卒中の後遺症や老化により、食べ物

や飲み物が飲み込みにくくなり、むせたり誤って気管に入ってしまうことがあります（誤嚥）。これが肺炎の原因になることもあります。言語聴覚士は飲み込みの状態を評価し、安全にのびる食事ができるように訓練や食事の工夫を提案します。

言語聴覚士によるリハビリテーション医療は、医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士など医療専門職・ケースワーカー・介護福祉士・介護支援専門員などの専門職と連携し、チームの一員として行われます。

言語聴覚療法を受けるには

言語聴覚士は医療施設、介護施設、福祉施設、保健施設、教育機関、在宅など多岐にわたる場所で活躍しています。

しかし、言語聴覚士は、医師の指示なしには医療行為を行うことができません。

まずは担当医に相談し、言語聴覚士によるリハビリが必要かどうか、またどのような受けられるかについて指示を受けましょう。医師からの指示があれば言語聴覚士が実際に患者にお会いして評価、訓練を進めていきます。

くらて病院の言語聴覚士

くらて病院では、リハビリテーション科に言語聴覚士が在籍し、成人の患者を対象に、「ことば」「飲み込み」の障がいに対するリハビリテーションを提供しています。（きこえ」「小児」のリハビリは行っておりません。）お困りごとがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

A

言語聴覚士は、ことば・きこえ・飲み込みに問題がある人を支援し、自分らしい生活が送れるようリハビリを行う国家資格の専門職です。言語聴覚士によるリハビリを受けるには、医師の指示が必要となります。